

新たなチャレンジ

新年おめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、希望溢れる新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日ごろから市政に対し深いご理解とご支援、ご協力を賜り心から深く感謝申し上げます。

私は、皆様から力強いご支援をいただき、田村市長に就任してから間もなく9カ月目を迎えようとしておりますが、就任当初の気持ちを忘れることなく、市政運営に努めていく覚悟であります。

市長就任以来、「田村市大改革」を念頭に置きながら、現場主義を徹底し、皆様からいただいたご意見をいかに市政に反映できるのかを常に考えてきました。その上で、具体的な取り組みとして、働く場の確保では養鶏業を誘致し、操業開始に向けた準備を進めております。また、旧石森小学校にテレワークセンターなどを整備し、子育て世代の雇用創出や都市部からの異動に伴う従業員の定住化を目指すなど、地域の活性化を進めているところです。

さらには、予防医療として、昨年5月から市内の公共施設の全面禁煙を実施し、受動喫煙対策と健康寿命の延伸を図っています。また、昨年

10月からは皆様の声を市政に反映するため、「市民の声受付専用電話」の運用を開始しました。

しかしながら、多くの公約や政策課題は緒に就いたばかりですので、知見した諸課題を含め、いかに具現化するか、実行に移すかを意識した市政運営を心がけてまいりたいと思っています。

さて、昨年を振り返ってみますと、市内の若手経営者を中心とした有志が「田村に生きて、田村をつなぎ、再び誇りを。」という思いを胸に、野外音楽フェスを開催しました。若者が自分たちの力で、誇れるまちをつくるために、地域の魅力を発信する新しい挑戦をされたことの意義は大きく、市内外から多くの方が参加するイベントになっていくことを期待しています。また、船引小学校6年箭内洗斗くんが「第33回全国小学生陸上競技交流大会」の走り幅跳びで、見事優勝を果たしました。今後、自分の夢に向かって力強く進んでいくことを期待するとともに、あとに続く児童たちの励みになると、とても心強く感じているところです。

今年も、「希望あふれる田村市」の実現に向けて、チャレンジする年と

市民のために 開かれた議会運営を目指して

明けましておめでとうございます。

市民の皆様には、希望に満ちた平成30年をお迎えのこととお喜びを申し上げますとともに、日頃から市議会活動に対しまして、温かいご理解とご協力を賜り、心より厚く御礼を申し上げます。

東日本大震災から7度目の新年を迎え、これまで、復旧から復興へと着実に歩みを進めてまいりましたが、原発事故の影響により、人口減少が加速するなど、私たちを取り巻く環境は、依然として厳しいものがあるといえます。議会といたしましても、企業誘致による雇用の場の確保や子育て支援の充実など、定住人口の増加に向け、議会の持てる力を十分発揮できるよう、引き続き全力を尽くしてまいります。

昨年田村市議会は、真の地方分権時代の到来に向け、二元代表制の一翼を担う存在として、議会が市民の負託に応え、市民福祉の向上と市の発展に寄与するなど、議会が担うべき役割を果たすために必要な基本的事項を定めた「田村市議会基本条例」を議会の最高規範として制定しまし

た。

この条例の中で、議会や議員としての基本的な活動の原則や、市民や市長との関係などを具体的に定めるとともに、開かれた議会及び議会の活性化を図るための基本的姿勢を示したほか、市民全体の奉仕者としての議員の政治倫理について規定し、常に良心に従い誠実かつ公正にその職務を果たすことを決意しております。

市議会は、言うまでもなく市民の意見を最大限尊重する責務を有しております。これからも市民の代表であることを強く認識するとともに、常に市民の声、地域の意見等を傾聴し、それらを尊重したうえで、責任ある行動をとるよう心掛けなければならぬと考えております。

市民の皆様が、ここに住んでよかったと心から実感できるような田村市の実現を目指し、「市民のために審議し、市民のために決定する」という市議会の基本理念を大切にしながら、市民に開かれた議会運営を進めてまいりますので、より一層のご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



田村市長
本田 仁一

位置付け邁進してまいりますので、市民の皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。
結びに、新春の門出にあたり、市民の皆様方のご多幸を心からお祈り申し上げます、新年の挨拶とさせていただきます。



田村市議会議長
大和田 博

結びに、本年が市民の皆様にとりまして、穏やかで幸せな一年となりますよう心からお祈り申し上げます、年頭のごあいさついたします。

平成30年
年頭のごあいさつ